



イギタリエフ・シャフゾッドさん

「自然が豊かで良いまちだな」というのが、舞鶴の第一印象です。人が優しく、小・中学校の前を通ると「ハロー」と声を掛けてくれます。いろんな行事に参加し、いろんな人と交流しますが、皆さん優しく、楽しく参加しています。「No.1の学級」では日本語だけでなく日本の文化やマナーも学んできたので、文化の違いで苦労することはほとんどありませんが、天気には戸惑いました。日本はウズベキスタンに比べて湿度が高いので、特に夏は大変でした。そして「弁当忘れ

ても傘忘れるな」といわれるように、本当に天気がコロコロ変わるので驚きました。また、ウズベキスタンは海がなく、生魚を食べる習慣がありません。初めて食べた時は怖かったです。今では週2回食べられるほど大好きになりました。

## 文化環境

Culture



①



②

外国の人とお話すると、いつも新鮮な発見と感動があります。ウズベキスタンの留学生の皆さんと初めてお会いした時もそうでした。とても上手な日本語で、日本の印象や母国のことなどを話してくれて、温かく頼もしい人柄が伝わってきたのを覚えています。

「外国人が安心して生き生きと暮らせること」。これが、私たち舞鶴国際交流協会の願いであり、そのためには「顔の見える交流」を積み重ねることが大切だと考えています。留学生の皆さんとは、



NPO法人舞鶴国際交流協会  
理事長 鳥居 文子さん

「鶴や日本の文化を知ってもらうことや、まいてフェスタやJA収穫祭などの行事で母国の文化を紹介してもらうことなど、さまざまな交流活動を行ってきました。これからも、留学生の皆さんをはじめ外国人も「舞鶴で共に生きる仲間」との思いを胸に、活動を展開していきたいと考えています。」



③

- ① 茶摘み体験
- ② 民族衣装に身を包み異文化交流イベントに参加
- ③ 食文化の交流 イベントでウズベク料理を調理・販売



## ウズベキスタン人の留学・就労事情

ウズベク人の国外での留学・就労事情や、ウズベク人の特徴についてアフメドフ・アシルベク国際交流員に聞きました。

現在、ウズベキスタンでは、人口約3,600万人のうち、30歳未満の若年層が人口全体の55%、65歳以上の高齢者層が人口全体の11%を占め、若年層に偏った人口構造をしています。今後15〜20年間は、若年層が大きな労働力となって国家建設と経済発展に大きく貢献する可能性を秘めているといえます。

企業や教育機関などで高度人材として働いている人もいます。もちろん、日本だけでなく、世界中で数多くのウズベク人が活躍しており、彼らの多くは情熱と向上心を持って人生を歩んでいます。また、母国にはない新分野として、世界各国の優れた知識や技術を習得したいと思う若者は、ますます増えてきています。それは、ソ連から独立後、今年で32年を迎えるウズベキスタンでは、全ての業界が発展しているとは限らないからで

す。ウズベク人にとって、国外に移住・定住することは、ごく自然なことです。また、ウズベク人の特徴についても紹介したいと思います。1つ目は、目標を達成するために努力を惜しまないことです。先ほど述べたように、人口の半分以上が若年層であり、仕事に就くためや自分が選んだ分野で成功するためには、非常に高度な知識と経験が要求される人が多いです。かつての日本のように、学歴社会が色濃く残っており、国

立大学の受験競争は非常に激しいです。国民の教育に対する意識が高く、特に子どもの教育については熱心です。このような背景から、努力して夢をつかみ取るという精神力が培われていきます。2つ目は、家族を大切に、互いに敬い思いやりがあることです。日本人と同じように親孝行の精神があります。愛情を持って育ててくれた親に対して、子どもは「家や車を買ってあげよう、メッカに連れて行ってあげよう」など、必ず恩返しを目標を立て、達成するまでモチベーションを保って頑張るのも特徴です。



出前講座でもウズベキスタンを紹介しているアフメドフ国際交流員



ウズベキスタンで日本語を勉強する若者



リシタン地方の日本語学校「Noriko学級」

まいづるのみなさん  
リシタンへ  
ようこそ!!

近畿能開大京都校に在学する留学生3人も、将来の目標はもちろんですが、舞鶴市での人生について、しっかりと計画を立てていると思います。彼らは、リシタン地方や両親の期待を背負い、それをモチベーションに変えて勉強に励んでいます。舞鶴での兄として、今後も彼らを応援していきたいです。